

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### .理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### .安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### .サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホームぷうさんのおうち

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

田村 富美子

評価完了日

平成 19 年 6 月 27 日

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 8月 21日

【評価実施概要】

事業所番号	3870103953		
法人名	有限会社やわらぎ		
事業所名	グループホームぶうさんのおうち		
所在地	松山市松前町1丁目2-8	(電話)	089-945-1051
管理者	田村富美子		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市三番町六丁目5-19 扶桑ビル2階		
訪問調査日	平成19年7月10日	評価確定日	平成19年8月21日

【情報提供票より】 (平成19年6月1日事業所記入)

(1)組織概要			
開設年月日	平成16年5月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.4人
(2)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		
(3)利用者の概要 (平成19年6月1日現在)			
利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 88.2 歳	最低 70 歳	最高 104 歳
(4)他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護		
届出 あり・(なし)	短期利用共同生活介護		
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長く勤務されている職員が多くおられ、利用者との馴染みの関係となっている。「ばあばのお料理教室」を開催し、ちらし寿司の作り方を利用者から習われた。ご家族も招待し、皆で食事をされた。日々の暮らしの中で利用者の思いの把握に努め、月1回の会議時に職員全員で情報共有を図っておられる。小鳥のお好きな利用者のために、小鳥を飼い始め職員と共にお世話をされていた。利用者とのさりげない会話の中で、ご本人が歌舞伎がお好きだということを知り、昨年は、県民文化会館へ歌舞伎公演を見に行かれた。

【質向上への取組状況】

前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	・地域行事への参加や日々の記録の工夫等に取り組みました。
今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	・職員全員で自己評価に取り組み、管理者と職員でまとめ、事業所の改善点等を確認された。
運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)	・会議時、地域の方から地域行事へ参加を勧めていただいた。事業所から回覧板でホーム便りを回していただけるようお願いをされた。
家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)	・毎月来訪されるご家族が多くあり、その際にできる限りご家族の声に耳を傾け、ご希望をうかがえるよう努力をされている。
日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	・今年から町内会に加入し、町内会長の方に勧めていただき地域の老人会に参加されたり、事業所内で月2回開催されている喫茶店イベントに地域の方をお誘いしている。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<p>(自己評価)</p> <p>開所当初からの理念は変わっていないが利用者の方が地域で生活していると言う実感が持てるような地域とのつながりを作る取組みを少しずつ始めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族や地域の方が来られた際、事業所の理念がより目に付く位置に理念を掲示された。</p>		地域の行事等の参加の機会を捉えてたり、GHの行事や取組みで地域に参加協力を呼びかける時に地道にGHの理念や方針,想いを伝える。
2	2	理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>理念に立ち返り共有の認識を持ち続けられる様に日常のケアの実践の中でも増えてきた。</p> <p>(外部評価)</p> <p>年度初めには全員で理念を確認し合い、又、日頃から理念に立ち戻りケアが行えているかということについて、話し合う機会を増やしておられる。</p>		スタッフ会や様々な取組みの中で繰り返し立ち返ると言う意識、姿勢を保ち、実践できているか話し合い、伝え合う機会を増やす。
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>地域や家族とのかかわりの大切さや必要性を求めていることを伝える。家族参加などの行事を企画を増やし月1回のGH便りなどでホームの情報を発信している。</p>		今まで地域との交流がなかったためGHがあることも知らない地域の人がいたと思う。今年から町内会の行事に参加させてもらうことになり地域の人達や家族にGHがどのような所なのかをもっと知ってもらえるように出来る行事には利用者と一緒に参加して行きたいと思う。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 一般の民家と企業が混在している地域で日常的な付き合いはしておらず挨拶程度。町内会の行事で忘年会・敬老会・祭りの参加を始めている。		建物の構造上入り辛い面があるので気軽に立ち寄れる様、玄関や駐車場、月2回の喫茶店を利用し井戸端会議の場を作る。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 町内会への参加(管理者) 町内忘年会(管理者) 敬老会(利用者・スタッフ) 祭りへの参加  (外部評価) 今年から町内会に加入し、町内会長の方に勧めただき地域の老人会に参加されたり、事業所内で月2回開催されている喫茶店イベントに地域の方をお誘いしている。		地域の人がホームに足を運んでもらう活動。地域活動もスタッフ一丸となって積極的に行う。町内会の会合をホームで行ってもらう。(町内会長に声かけはしている)地域の行事に参加し地域の人と交流を深めたい。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 偶発的な事への対応は行っているが利用者の支援で精一杯の面がある。		民生委員の方に相談し協力してもらいながら事業所に足を運んでもらう機会を作る。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価を活かして改善に取り組んでいるが継続的にできていない事や実践できていない事がある。  (外部評価) 職員全員で自己評価に取り組み、管理者と職員でまとめ、事業所の改善点等を確認された。地域行事への参加や日々の記録の工夫等に取り組まれた。		見直し点が改善できていない事継続してできない事の原因について話し合い新たな改善点として取り組む。  さらに、サービス評価への取り組みをきっかけに、気付いたことを計画的に実践していくような取組みが期待される。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回実施 毎回活動報告、テーマを決めて話し合いを持っている。 19年度は委員の方にホームを実際に見てもらふ機会を多く持つようにする事を伝え進めている。		19年度は話し合いだけでなく介護の現場を実際に見てもらいながらよりサービスの向上に繋がる情報、意見交換の場にしていく。
			(外部評価) 会議時、地域の方から地域行事へ参加を勧めていただいた。事業所から回覧板でホーム便りを回していただけようお願いをされた。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議、実施指導以外は関わりがほとんどない。19年度より実施となった保険給付に関する照会等事務の協力事業への対応等		
			(外部評価) 今年から市の担当者が2ヶ月に1回程度来訪するようになり、事業所の実情を見ていただけるようになった。又、他の事業所との交流についての相談等もされている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は研修会に参加して必要性を感じてはいるが実施できていない。		運営推進会議等で包括支援センターの職員の方との接点を活用して相談する機会つなぎをつくる。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止実連法についての勉強は実施されていないがホーム内での虐待はない。		事業所内の研修で機会をもつ。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 説明、同意を本人及び家族に対応し納得してもらっていると思う。家族がおられない方には本人に説明している。		確認しながら行っている。契約時以外でも、いつでも応じる事を伝えている。
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) その都度、全職員が周知できるよう連絡ノート・個別の連絡ボード等を利用し要求に応じられたかどうかチェックしている。		利用者はスタッフに遠慮している所もあり不満・苦情をなかなか面と向かって云えないのではないかと思う。表現の乏しい方はスタッフの想い、願いで対応することが多くても多角的に捉えたり、情報収集に努め、一人ひとりの職員が介護のセンスを磨く。
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 月1回の自社便り、年度始めに個々の利用者の担当スタッフ紹介を文書で行う。家族の来所時や必要に応じて電話連絡する。金銭管理は月1回利用料請求時に報告している。(多額の方は随時相談・報告している。)		担当者以外のスタッフでも連絡がとれるようにし報告して連携を取っている。自社便りの郵送時に個別に手紙を添えたりしている。家族の来所時に利用者の方の様子を伝えている。
			(外部評価) 系列事業所とともに、月1回出しておられる便り「やわらぎ」をご家族に送付されている。		今後、食事内容を写真に撮って、ご家族に報告するような取り組みも考えておられた。
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情の窓口や公的機関についても契約書にも名記されており説明も行っているが表出しにくいのではないかと思われる。		日頃からの家族とのコミュニケーションが一番大切であり、その為に伝えやすい人間関係や雰囲気等様々な工夫考える姿勢を心がける。(スタッフが理解している)。 アンケートの実施をする。
			(外部評価) 毎月来訪されるご家族が多くあり、その際にできる限りご家族の声に耳を傾け、ご希望をうかがえるよう努力をされている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のスタッフ会の他、問題があれば日々の申し送り時、随時、話せる時間をとっている。会社全体のリーダー会でも伝え、結果を報告しているが十分とは言えない。		現場の職員と運営者との話し合う場をつくたり。管理者を介して伝える。
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者の状況に合わせて勤務時間の変更・調整を職員同士で話し合いをしている。 人員の調整については、継続できない事も生じる。 (移動・退職)		勤務時間の変更を利用者の状況に応じて行っている。重度化、特に看取り介護の取り組みへの対応のためにはその都度、事業所として行なう事行なえる事を明確にし、他の機関との協力が得られるよう関係を築いていく。
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の異動はあまりないが19年5月末に1名自己都合で退職。利用者のダメージは名々あったが改善できる所は早めに対応しスタッフにとっても働きやすい・働き甲斐のもてる職場作り、何より利用者が生き生き生活できるGH作りを目指している。		実際に事業所内の利用者や職員の様子を現場に足を運んで見たり現場の状況の把握に努めている。
			(外部評価) 長く勤務されている職員が多くおられ、利用者との馴染みの関係となっている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 新人研修 その他、年1・2回法人内で実施。 GHへのヘルプ。回数的には少ないが県外の研修も受けている。		資格取得に向けての情報を伝える。介護技術講習や受ける。(法人内外)勤務調整を行いながら、研修を受ける機会を増やす。
			(外部評価) 管理者は、職員研修の必要性をよく理解され、法人内では年2回の研修を行っている。又、県外の研修等にも参加されている。		勤務状態に余裕があまりないこともあって、なかなか研修に時間が取れない実情であるが、今後は県GH協議会の研修等へも積極的に参加したいと考えておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)		
			地域の同業者との交流は程んどない。 ネットワーク作り、勉強会等も行なえていない。		相互訪問による勉強会 他のGH見学、
			(外部評価)		
			他事業所の見学について、市の担当者に相談をされている。		地域内の他事業所との相互訪問の話し合いもされており、さらなるネットワーク作りが期待される。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の問題には個別に相談・話し合いをしている。 忘年会など交流できる場を設けている。 人員不足の解消に取り組んでいたが継続できず確保が思うように行かない。		人材不足の解消に積極的に働きかけている。(インターネットのサイトでの情報発信にもスタッフの写真を出し幅広い年齢層にアピールする工夫を始めている。)
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の個々の努力や勤務状況を把握して勤務の変更などで対応しているが職員数に余力がないので難しい場合も多い。年に2回管理者による職員の評価を行っている。(評価内容について職員にも知らせ自己評価を行い目標管理シートを使用・個々の職員の長期ビジョン・課題などを出し管理者が把握している)		評価については今後も実施 個別面接・各自の目標・課題など達成に向けて取り組み・悩み等を聞く機会を作る。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 直接訪問・又は来所してもらおうなどようにしている。 本人の訴えに耳を傾け受容的態度を取れるよう努力している。		得た情報をスタッフ間で共有する事に努めている。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 電話・訪問・ホームを来所してもらうなど相談者に応じて対応しよく聴く事につとめている。		話したい事があっても家族から話しにくい事もあると思うのでスタッフからよく話し、話しやすい環境を作っている。
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 電話での問い合わせが多いがグループホームのサービスについて説明を行いながら求めている支援の理解と情報提供に努めている。		相談を受けた時、全ての職員が周知できるよう報告している。その場での対応が難しい場合も後で連絡が取れるように働きかけている。
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 居室には馴染みの家具などを持ち込まれたり面会の時間の制限などをせず家族も受け入れ本人の不安の解消をしている。 (外部評価) ご本人ご家族に対して、入居前に事業所を見学していただき、十分納得されてから入居いただけるようお話をされている。		本人との事前面接は必ず行っている。入居には至らなかったが体験をして貰うことも勧めてみた。事前に本人にできるだけいい処して貰うよう声をかけている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 担当スタッフを中心に日々のケアの中で得た情報の共有・要望に対して達成可能か否かの話し合いや確認・本人が選択できるような場面と会話に気をつけたり職員から感謝の言葉を伝えたりしている。 (外部評価) 「ばあばのお料理教室」を開催し、ちらし寿司の作り方を利用者から習われた。ご家族も招待し、皆で食事をされた。		スタッフ自身いつも初心に戻り一緒に過ごす時間や会話時間を多くとるようにしたい。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族への個別への連絡を担当者を中心に行う。 ホームに来所してもらう機会を作り行事などの参加の声かけをする。		年間行事の中で家族参加のものを決めて実施しているが参加人数が少ないのと日程(平日・土日・祝日)の調整が難しいので年間行事のすべて自由に参加してもらうようにする。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人と家族との関係の理解に努め本人家族の相方に負担にならないようにし状況に合わせて電話・来所時・手紙などで伝える事に努めている。		ケアプランに家族の思い等、別途記載し家族との関係作りやプランに取り入れる。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人との交流はあまりないが関係を継続できる事は実施している。 ・行きつけの理美容店 ・その他の店 ・友人・知人の来所時の対応 (本人は求めているも家族が断る場合あり)		継続して行える支援体制づくりに努める。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 細かなことではあるが食事に誘いに行ってもらう協力して欲しい事や各利用者が困っている事、新入居者の情報を伝えるように努めている。		もっとスタッフが間に入り日々の生活の中や行事など互いを意識して生活できる場面を作るように心がければ自然と利用者同士の関わり合いやコミュニケーションが増え自発的な関わりの見守りや継続的なものへつなげていけるように努めている。
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 死亡による契約終了でも家族との関わりを持っている。		電話や手紙等で季節に応じてホーム内での出来事を知らせる。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
33	14	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人や家族より得た情報収集に努め本人の意向、要望に応え支援する努力をしている。達成できているかどうかメモや連絡ノートで全スタッフが周知・確認している。利用者用のボードを用意している。表現の乏しいまた困難な利用者の場合はチームで検討するようにしている。</p>		<p>利用者の方の様々な表現の手段に目で耳で触れ合っ感じ取る姿勢の重要性をスタッフは理解し継続出来る様、日々の情報の共有を努める。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>日々の暮らしの中で利用者の思いの把握に努め、月1回の会議時に職員全員で情報共有を図っておられる。小鳥のお好きな利用者のために、小鳥を飼い始め職員と共にお世話をされていた。</p>		
34		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居前の生活については本人・家族・施設関係者・ケアマネージャーからの情報収集に努めている。</p>		<p>アセスメントの見直しや日常的に利用者や家族からの情報収集と共有ができていないか確認は把握を定期、不定期におこなう。</p>
			<p>(外部評価)</p>		
35		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者一人一人の日日的なスタッフ間の報告、24時間のフローシートの記入する事でスタッフが把握できるように努めている。本人よりの聴き取りが認知症により難しい場合もある。</p>		<p>利用者の発揮できる能力の可能性を多方面からアプローチする努力をしている。</p>
			<p>(外部評価)</p>		
36	15	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月1回の職員会でケアプランの見直し話し合いの場を設けている。家族を中心にプランの説明・要望を聴き取り随時、相談している。</p>		<p>家族の要望を別紙に記入プランに添付する。月1回のケアプランの話し合いの前に担当者でケアマネージャーで個別にプランについて検討する。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>担当者でケアマネージャーが話し合い、ご家族の要望なども聞き取り、介護計画を作成されている。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態の変化があれば随時対応をとっている。急激な変化が等については見直した計画が後になる事もあるがその都度必ず本人・家族に説明し理解が必要な物は直接相談している。		常に利用者、家族と介護者の双方向との関係の中で計画の立案、見直しを行なう。
			(外部評価) 2～3ヶ月に1回、介護計画を見直しておられる。又、骨折等での状況の変化に応じ、その都度計画を見直しておられる。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ホーム独自の個別記録を作成し本人の意示を確認できる事など記録しケアプランに活かすようにしている。 排泄時の記録と評価（下剤と排便） 体重の推移（グラフで記入）		ケアプラン（目標）を個別記録に表記し1日ごとにケアプランの評価を出している。 個別記録の継続使用と見直し 排便と下剤の使用についての評価 （自然排便につなげる為に）
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 身体的状況の変化に応じた対応と関係 機関との連携可能な限り家族の思いや要望に応じることが出来る様に努めている。		本人・家族の要望に対し可能な限りの対応をホーム全体で検討（急を要する場合は管理者を中心に）しその他も同様にして対応できない事はきちんと説明したり必要に応じて他機関に相談協力を得るようにしている。
			(外部評価) ご家族の要望による医療機関への送迎や 利用者の希望によりお墓参りにおぶってお連れする等、利用者ご家族の要望を出来る限り受け入れる姿勢で取り組まれている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 個別、又はホーム全体としてボランティア・警察・消防・保育園・市民劇場等の国体の活動協力を得ている。		社会資源の活用をもっと積極的に行う。
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービスの利用ではないが問題解決に向けて訪問看護ステーションとの連携をとる。医療マッサージを利用している。		他の機関との連携を積極的に行う。
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 必要性はあると思うが実施できていない。		運営推進会議以外でも相互の連絡や相談を行う。
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 24時間医療機関と連絡できるよう連携している。専門が異なる場合、他の医療機関の紹介もしてもらっている。		本人・家族の希望を事業所側がまず受け止め医療機関との連携の橋渡しをし互いの理解・納得・最善の対応方法などコミュニケーション作りに努める。
			(外部評価) 提携医療機関とは24時間体制でバックアップしていただいているようになっている。利用者、ご家族の希望するかかりつけ医への受診にも対応されている。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 主治医は専門が内科医であるため専門的に詳しいかどうかは把握できていない。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価)  連携医療機関が主になっている。 看護師よりも主治医との話し合い(電話連絡や往診時)		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価)  主治医の勤務する病院には入院設備がないが入院時に情報提供と入院中の経過についてはスタッフが交代で様子を見に行ったり看護師・家族等の情報交換を行っている。		可能な限りスタッフが医療機関に足を運んだり、連絡を行って情報を得ている。
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価)  重度化に向けた指針については各利用者・家族に説明しているが実際に細かい内容についての話し合いについては実際に看取りを行ったケースがなく出来ていない。  (外部評価)  重度化した場合における介護方針同意書を作成し、看取り・医療機関への入院等、そのときの状態に合わせて選んでいただけるよう説明されている。		必要に応じて本人、家族、連携医療機関、事業所と話し合いを持つ事になっている。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価)  本人、家族の想いを出来るだけ受け入れる体制をとっているが、主治医と相談し合って行うようにしている。		日々の状況の変化、本人、家族の想いについては細めに主治医に伝え全スタッフ間でも周知している。今後、主治医・スタッフ間での支援の検討をその都度行う。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価)  生活のリズム・慣れ親しんでいる物・愛着のある物・人間関係など情報の収集と周知、検討を心がけている。		本人・家族から得た情報は伝え合い、アセスメントシート、サマリー、介護記録などの把握と提供、事業所全体としてダメージの防止に努める。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
50	20	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価)		
			プライバシーについては日々のケアの中で気付いたことは互いにその都度伝え合ったりスタッフ会で話し合い情報の扱いと守秘義務・責任を伝えている。		守秘義務や記録の扱いなどはスタッフ間で周知し利用者一人ひとりの立場に立ち利用者との信頼関係が築けるように努めている。
			(外部評価)		
			日頃の生活の中で職員は、常に言葉遣い等に気を配っておられる。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価)		
			選択できる言葉かけには気をつけているが利用者からもスタッフの思いが専功する場合もあり日々の介護の中で話し合ったりスタッフ会で見直ししたりしている。		見直しを要する場面で互いに言い合えるスタッフ間のコミュニケーション作り。 必要に応じての見直し・周知・実践を評価する。 利用者個々に応じた説明の仕方・言葉の使い方理解してもらえよう働きかけ自己決定が出来るように努めたい。
52	21	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)		
			出来る限り利用者のペースを優先するよう心がけているが人員・その日の行事・日常の介護に追われスタッフの都合で対応している場合もある。		出来るだけ利用者とコミュニケーションや気分転換に努め、言葉で表現できない利用者は特に表現・動き等細かな面まで情報として得、アプローチの手段を試みよう努める。
			(外部評価)		
			ご本人の生活歴を聴き取り、これまでの習慣等を日常のケアに採り入れておられる。重度化された利用者も多い中、できるだけ一人ひとりに寄り添った介護を心がけておられる。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 情報が少ないが本人の意向に対応している。 希望のない場合はスタッフからの働きかけも行う場合もある。		日中と就寝時は必ず更衣を勧める。 行きつけの店をつくる。(ホームの近所)
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 調理の準備・味付け・後片付けは一緒にしてもらっているが重度の方の介助が多いので別の時間になっている。 ・献立作成時に食べたい物を聞いている ・季節の食材を取り入れる (外部評価) 利用者の希望をうかがいながら、毎週の献立を一緒に考えておられる。利用者とともに料理を作ることも多い。		メニューを目でも楽しめるよう写真を撮っている。 (家族の来所時に見せるように)
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 疾患との関係で制限の必要な方以外はできるだけ楽しめるようにしている。(選択してもらう)		利用者個人で乳製品の宅配等をしてもらっている。チラシや試供品を試して変更等その都度利用者に提示している。
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 重度の要介護の方にも表情・動き等を見てPトイレを利用している。下剤を利用している利用者は出来るだけ薬の量を減らして行けるよう記録を取り評価している。		排泄の訴えが程んど無い方は特に定時にトイレ誘導するように行っている。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			2日に1回を目標にし選択できるような誘いかけをしているが、拒否の多い人については排泄後や更衣後にそのまま入浴へと導く事もある。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部の銭湯や温泉の利用をする。</li> <li>・入浴剤の利用で温泉気分を味わう。</li> <li>・菖蒲湯、ゆず湯など行事に合わせて楽しむ。</li> </ul>
			(外部評価)		
			職員が2人体制である午後7時半まで、ご本人のご希望に沿った入浴を支援されている。年1回の外泊計画の際には温泉を楽しまれている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			利用者のリズムに合わせている。閉じこもりにならないように気をつけ要求や状況に応じて日中も居室で休んでもらったりソファで居眠りできるようにしている。		夜間の安眠のために日中の活動の工夫や散歩など1日1回は外の空気が吸えるよう気分転換を図るよう努めている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			調理・掃除・洗濯・洗い物・買い物・散歩・歌舞伎・観劇・魚釣り等、状況に応じてしている。外出の機会を出来るだけ持つように努める。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物の外の活用を工夫する。 (駐車場や玄関先でおやつを食べる)</li> <li>・野菜作り</li> <li>・木製の家具作りをする。</li> <li>・月2回の喫茶店</li> </ul>
			(外部評価)		
			利用者とのさりげない会話の中で、ご本人が歌舞伎がお好きだということを知り、昨年は、県民文化会館へ歌舞伎公演を見に行かれた。利用者が作った木工作品のベンチを事業所で使用しておられた。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			本人が管理できない方が程んどでスタッフが管理しているが所持しているお金の金額など伝えたり、買い物の要望には出来るだけ伝えたり支払い時に渡したりしている。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族と相談して金額は少ないが所持してもらっている方もいる。</li> <li>・通帳を預かっている方は預金額など時々提示したり伝えたりしている。</li> </ul>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			体調・天候などによるが希望・要求をスタッフに伝えられる人はその都度対応しているがスタッフの都合で行けない場合もある。希望や要求を表現しない方はスタッフが積極的に誘いかけている。		1日1回建物の外に出て気分転換を行う事を目指すよう努めている。
			(外部評価)		
			近所の商店街へのお買い物や堀端へのお散歩、又、運転のできる職員のいる日中には、ドライブへ誘ってられる。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			年間行事で月1回は個人の趣味・意向などに添って支援している。 具体的には (観劇・保育園へ出かける・お見舞い・お墓参り・釣り・家族との食事・動物とのふれあい・花見)		利用者の希望で家族の了解が必用な事は連絡を取り説明し決定している。スタッフ間の勤務の調整を行ないながら、その都度対応している。(県外の外出等はまだ実践的な話し合いには至っていない。)
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			家族との連絡を取り合う時には利用者にも話をしてもらったりその他、電話で話す機会を作ったり要望にも応えている。手紙・電報をうつ等の支援もしている。		電話・手紙等のやりとりの機会をつくる支援をしている。
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			スタッフに気を使っていると思うが訪問はいつでも出来るように声かけしている。(夜間でも)		訪問した方が自由にお茶を楽しむ工夫をする。スタッフが用意するのではなく、来所者が自由に飲食が出来るようにする。お客さんのにならない。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の具体的な行為を正しく理解していると思うが止む得ない場合については家族の了解を得て一定の時期のみ行うようにしている。		今まででも今後も身体拘束をしないケアに取り組むように努める。
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜間、玄関と3階の入り口のみ防犯の為に鍵をかけているが日中は鍵をかけないように取り組んでいる。		今後も夜間の防犯以外の目的以外には鍵はかけないように努める。
			(外部評価) 日中は、出入りの際、玄関で鈴が鳴るようになっていた。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 夜間は2～3時間ごとの巡回を行っている。体調の悪い時は特に頻回に様子を把握できるようにしている。居室が2・3階に分かれており日中、居室で過ごしている方の把握が不十分で出来ない事がある。		・日中居室で過ごす時間が長い時は様子を見るようにする。 ・必要に応じて入り口のドアに鈴をつけて出入りの把握ができるようにしている。
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) はさみ・髭剃りを自力で使用出来る利用者には管理をしてもらっているが管理出来ない利用者についてはスタッフが預かるなどの対応をとっている。		今後も必用に応じて行うようにする。
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 安全を第1に考えて仕事に就く努力をしている。転倒の危険性のある利用者は見守り介助を行っている。		定期的に事業所内外での研修を受けたり、消防署の実施している救急法の講習や避難訓練での指導を受ける。危険性や対応を常日頃から周知、身に付けておく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) スタッフ会での話し合いをし緊急のマニュアルを日々見る所に置き訓練も行い定期的な訓練も実施できている。		消防署の救命講習を全スタッフが定期的に受ける。消防署員の来所時の年1回の訓練時にも応急処置も学ぶ。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防署員の方を招いての避難訓練と指示の機会を設けて方法は学んだ。地域の方には一度、挨拶とお願いに行っただけで日常的なかかわりが程んどない。		様々な災害を想定して月1回行うように努める。 (年間計画を作成する)
			(外部評価) 緊急時のマニュアルを作成しておられる。地域の方にいざという時に協力いただけるよう挨拶をされている。		さらに、地域の方達と相互の協力体制が作れるような取組みも期待される。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 持てる力を発揮してもらう為にもなるべく抑圧感のない暮らしを大切に一人ひとり状況や変化に応じて安全面にも注意しながらも起こりうる事それに対するスタッフの対応についてもその都度説明に努めている。		入所時に介護理念を伝え、理解納得して貰った上で契約を交わす。入居後は利用者の状況に応じてその都度理念に基づいたケア方針を具体的に伝え双方向の話し合いにて実践していく。(安心、安全の上に立った上でその人らしさを支える介護の大切さを伝える。)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 顔色・表情・動き・言動・行動・毎日のバイタルチェック等普段の状況の把握に努めている。異変時には医療機関との連絡、他スタッフと相談し素早い対応に心がけ記録・申し送りでも分かるように情報を共有している。		緊急時のマニュアルを作成、情報の共有の為、細かな面も口答、記録、申し送りで対応する。主治医への連絡も密に行い、情報の共有に努める。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		<p>服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>(自己評価) スタッフが把握、確認しやすいように個別記録に薬情・効用を記入しファイルしている。中止した物も新たに記入し日付け期間を入れている。本人の状況を細めに医師に伝え服薬の調整が出来ていて薬の量が減っている。</p>		<p>症状に応じた専門の医療機関の利用がスムーズに出来る。連携できる医療機関を増やす。(その為の医師とのコミュニケーション不足による対応の遅れや適切な医療が受けられないことにならないようにする。きちんと説明できる為の専門性を身に着ける) スタッフは自己研鑽を積む。</p>
75		<p>便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 出来るだけ自然排便が出来るよう腹部マッサージや可動域運動を行ったり食材・調理の工夫を行ったりして下剤の服薬の量が減らせるようにしている。自力排便の困難な利用者の服薬と排便のみのシートを作成し記録、評価している。</p>		<p>利用者の可能な限り自然排便と規則正しい排便に向けて排泄状況の把握のための24時間チェックシートと服薬とは排泄の状況のシートを作り評価、支援をする。オムツはずしを行なう。ホーム独自の音楽に合わせて楽しく身体を動かす。</p>
76		<p>口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>(自己評価) 毎食後の口腔ケアは行っていない事があるが就寝前は程んど出来ている。歯痛・義歯の噛み合わせの状況など状況に応じて訪問歯科の利用や指示を受けている。</p>		<p>口腔ケアのチェック表をつけている。定期的に評価する。</p>
77	28	<p>栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>(自己評価) 細かなカロリー計算は行っていないが食事の色どりを考えたり、肉・魚・野菜のバランス・旬の食材を取り入れ楽しく食事が取れる事を第1に心がけている。偏りの多い利用者には医師と相談し栄養補助食品の利用も行っている。水分も出来るだけ摂取してもらえるように(ストローを使用)工夫している。食事・水分の摂取量を記録・把握している。</p> <p>(外部評価) 糖尿病の方や肥満気味の方には、医師の助言も受けて食事や水分の摂取量に気を配っており一人ひとりの状態を考えて献立も作成している。</p>		<p>身体の状態に応じて使用する食器を変え摂取しやすいように努めている。</p>
78		<p>感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>(自己評価) インフルエンザの予防接種は家族の同意を得て利用者・スタッフ全員で行っている。感染症の予防には感染症のマニュアルがあり周知・徹底出来るようにしている。出勤時・介護度の手洗いの徹底に努めている。</p>		<p>感染症について文書での周知だけでなく勉強会を行う。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 包丁・まな板は毎日夜勤者がアルコール消毒をしている。布巾・タオル・おしぼりは細めに交換したり漂白している。食材は1日分を毎日購入し調理後2時間以上を目安に処分、又は冷蔵庫で保存(その日のうちに処分)冷凍する食材は日付けを入れ古い物は処分する。		利用者個人で購入したおやつ類は賞味期限を記載し期限内に食すようにしている。 (毎週日曜日は駄菓子の日として利用者個人のおやつを出来るだけ食してもらうようにしている)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関に手作りの表札を出している。花・野菜など季節の物を植え育てて建物の雰囲気や和らげようとしている。利用者とスタッフで掃除や水やりをしたり時には玄関先や駐車場にテーブルとベンチを用意して飲食したりしている。しかし建物の構造上1階には人がいないので2階へはなかなか上がりにくい雰囲気である。		玄関先・駐車場に利用者とスタッフで手作りの木製のテーブルや椅子を作ってそこで飲食する場を作る。
81	29	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 整理整頓と季節感や行事に関連がある物(雛人形・五月人形・手作りのこいのぼり等)利用者と一緒に作ったり置いたりしている。建物の老朽化があり居室が暗い所もあるが居間で少しでも四季を感じられるよう窓から入る空気や風・匂い・景色を見てもらったりしている。又、車椅子の利用の方が多いため移動時の配慮もしている(ソファへ移乗)		駐車場への利用と工夫を行う。 5階のフロアの利用(喫茶店、行事での利用) 小鳥を飼い観賞したり世話をする場を提供。
			(外部評価) 採光や換気等の配慮に気になる部分が見受けられた。		環境面では制限されることもあるだろうが、あきらめることなく、利用者の心地よい空間作りの工夫を重ねていかれることが期待される。
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間は狭いため独りになる居場所を確保する事が出来ないがそれぞれ声を掛け合って交流したりソファで昼寝されたり戸外に出て気分転換をしたりしている。		居室とリビング等の活用を利用者に応じてリラックスできるかわる。一日一回は外に出て気分転換をする。一人になれる空間も大切に。スタッフは様々な場面でのプライバシーへの配慮を日頃から伝え合い話し合っておく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			利用者の使い慣れた物や好みを尊重しているが新たに購入した物はスタッフの好みの物もある。居室の掃除や片付け・衣替えなど利用者の理解を得て行きプライバシーに気をつけている。		新しく購入する物についても可能な限り利用者が選択できるように配慮する。
			(外部評価)		
			利用者は、馴染みの家具や写真など居室に持ち込んでおられる。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			居室の掃除を毎日行っているなのでその時換気は細めに行っている。 ・排泄物等の匂い等は消臭剤を利用している。 ・居室の温度・湿度調節も細めに行っている。 ・冬場は廊下・トイレ・浴室の寒さ対策が不十分な所がある。		スタッフは利用者年齢的なものと活動量、体力等個人差があり体調にも影響があることを常に頭におきより快適に過ごしてもらえ心遣い配慮を行う。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			身体機能の状況に応じた対応を心がけているが建物の構造的なものもあり四角になる場所・場面・段差・階段が多く安全性に欠けているが日常のリハビリにはなっていると思う。エレベーターは完備しているのでエレベーター使用時はスタッフが付き添い行っている。リビングには日中必ず1名スタッフが居るようにしている。		死角になる場所での安全面での対応についてはスタッフ間で伝え、話し合っておきインシデントの作成をこまめにおこないながら、安心して持てる機能を十分発揮してもらえようにする。(危険に繋がる事を直ぐに排除するのではなく安全の為に工夫できる事を考えてみる。)
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			年間行事計画、病院からのお知らせ、催し物の広告などの掲示をしている。スタッフの意図が伝わりにくい物や度々、混乱する物等、利用者の状況に合わせて変えたり除くようにしている。自立して出来る事、出来ない事を見極めて出来るだけ自立してもらえよう声掛けしているが、時に先回りし介助してしまう事がある。		・新しい取り組みや準備した物等スタッフ全員が情報を共有し対応出来る様にしている。 ・申し送り、連絡ノート ・利用者の力が発揮出来るようゆっくりと待つ心のゆとりを持つように努める。
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			ベランダは利用しにくい狭さではあるが植木や外の景色を見たり小動物の世話に利用を始めた。外周りには野菜や花を植え利用者と一緒に水やりをしたり駐車場で行事や飲食したりしている。		利用者の好みや関心を最大限に取り入れて工夫する。季節感もてる環境作りをする。常に利用者の方と行なえる事を考える。

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ③ ① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	選択できる場面が少ない、情報が少ない、情報があっても継続的な支援が出来ていない事がある。時には、気付いているのに行動に移せなかったり、本心で話している時とその裏の気持ちを読めず怒らせたり納得してもらえない時もある。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ② ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	年々、重度化し介護を必要とする利用者が増え、食事介助・入浴介助・調理・記録・直接的ケア・その他の業務に時間がかかり人手不足もあり十分とは言えない。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ② ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	一人一人の利用者の生活リズムを大切に考えているが自力で動く事の出来ない要介護度の高い利用者の場合、自己決定が難しく、言語・表情から認識出来ない事もある。介護度の低い利用者はスタッフの業務の都合で一人ひとりのペースで暮らしているとは言えないと思う。(スタッフに気を使いながら)
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ② ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	困惑したり苛立ち等もあるが、ここ1年で随分、表情・生活も変わり笑顔もよく見られるようになったと思う。自らの訴え、要望も増えた人も多い。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ③ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	1日1回は外に出て気分転換を図りたいがスタッフの都合で希望に添えない場合もある。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ② ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	歳を重ねるごとに健康面は不安に思う事もあるし(意思を確認出来ない利用者もいる)安全面についても施設内の環境が整ってなく、転倒の不安感があるのではないかと。又、専門の医療機関を利用する対応が十分でない時がある。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ② ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	身体的状況に応じてスタッフ間で話し合い・対応する事に努めている。利用者の要望に応じられない事もあるが説明し、納得してもらっている。(発言出来ない利用者の場合は難しい)
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ② ① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	事業所側の思いや意図が十分伝わらない時もあるし家族にとってはお世話になっているという思いから遠慮して言葉にされない事もあり信頼関係が十分とは言えない。又、利用者家族とつながりを持ちたくない人もおられる。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ④ ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	利用している地域の業者の出入りはあるが、ボランティアの方以外はない。地域とのつながりの一歩が始まったところである。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	(自己評価) ② 1 大いに増えている ② 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない	地域の代表の委員の方自身も地域のつながりが希薄になっているとの指摘もあったが委員の方自身、当GHを知るきっかけとなり理解して頂いたり交流の場となったり情報や意見の交換の場となっている。
98 職員は、生き生きと働けている	(自己評価) ② 1 ほぼ全ての職員が ② 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日々の業務に追われ介護度の高い利用者の援助は身体的にきつくスタッフ一人ひとりの仕事が随分増えてきているがそんな中でもケアのアイデアや新しい取り組み等、望む姿勢が継続して見られ信頼しあえる関係だがマンネリ化に苦しむ時もある。
99 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) ③ 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	受身的な生活になっている事も多く、地域で生活していると言う実感が味わえる日々のかかわり・つながりが出来ていない。利用者スタッフと言う人間関係になっている為、生活の広がりが持てていない。もう少し人員にゆとりがあれば個々のケアの対応が出来ると思われる。言葉を発する事が困難な利用者はスタッフの思いで支援している部分もある。
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己評価) ② 1 ほぼ全ての家族等が ② 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族も色々不満はあると思うが自宅で介護が出来ない後ろめたさ等から我慢している所もあつたり時には「良くして下さい」と言う言葉を頂いているが行き届かない面も感じていると思う。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

・利用者の重度化が進んでいく中でも利用者一人ひとり何かしら生活に張りのある時間、楽しいと思える時間や空間創りを心がけている。 ・スタッフ全員、利用者、家族とのコミュニケーション作りに日々一生懸命で人の気持ちの温もりを互いに大切に人間関係の向上に努めている。

・理念にかかげた「生き生き、わくわく過ごせる」様、毎月2回喫茶店を開き、家族、ボランティアなども受け入れて外との交流に努めている。又、利用者の誕生日会をしたり月1回は行事を計画しホームの中だけでなく外出する企画や家族参加の行事を多種類立てている。